

ボーリング柱状図

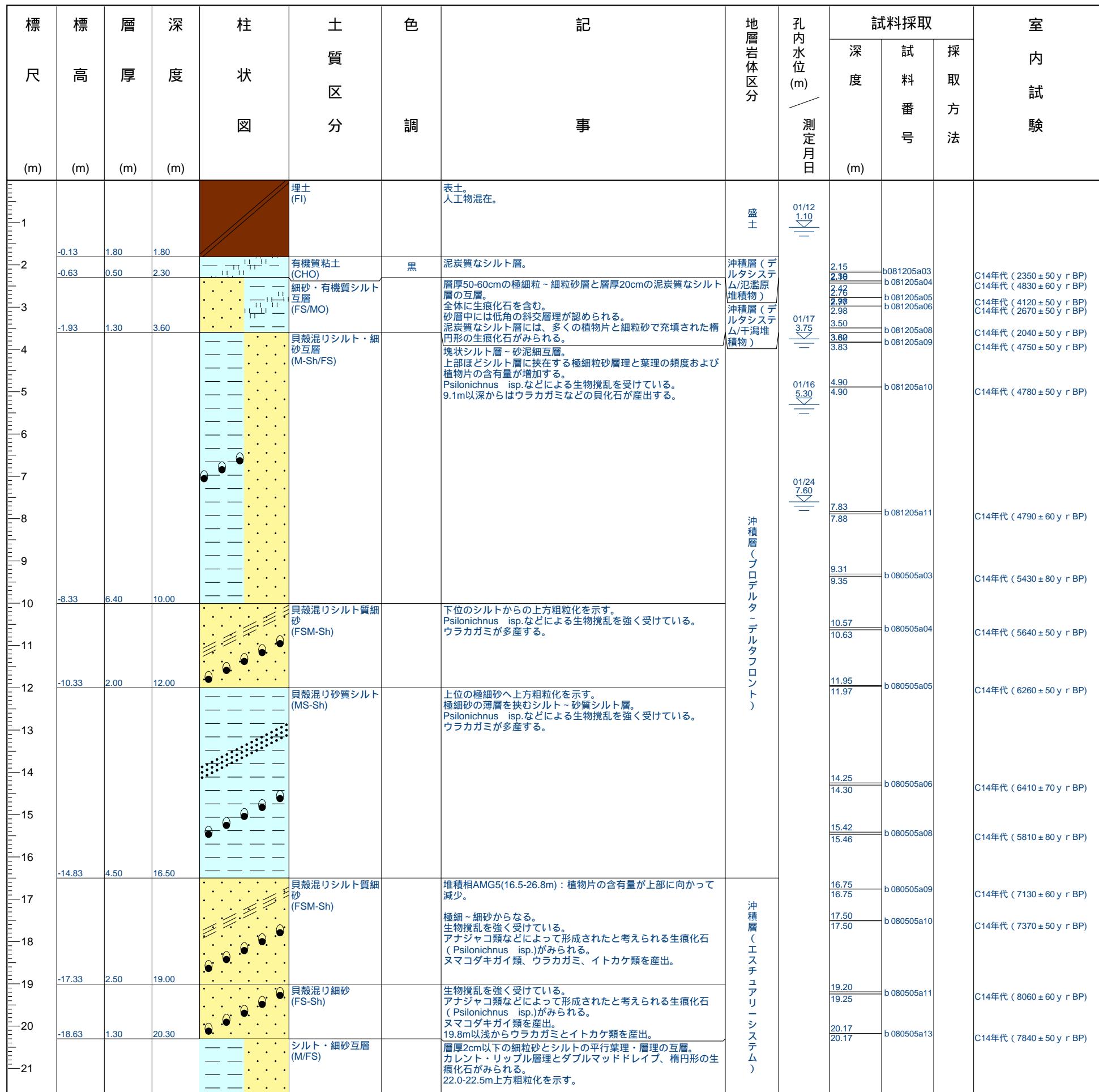
調査名 田辺晋ほか(2006)地調研報, vol.57, no.9/10, p289-307.

事業・工事名 産総研 都市地質プロジェクトの層序ボーリング調査

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	GS-AMG-1 (本木)	調査位置	東京都足立区本木1-14 足立区立本木東小学校						北 緯	35° 45' 43.15"	
発注機関	(独)産業技術総合研究所						調査期間	2005_01_05 ~ 2005_02_28			
調査業者名	出展：(独)産業技術総合研究所RIO-DB「関東平野の地下地質・地盤データベース」			主任技師				現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	1.67 m	角度	180° 上 下 0°	90°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	鉛直 90°	水平 0°	使用機種	試錐機 文献・出典の詳細はXMLファイルのフリー情報欄を参照。
総掘進長	58 m								ハンマー落用具		
								エンジン	ポンプ		



22	-20.73	2.10	22.40		シルト・細砂互層 (M/FS)		層厚2cm以下の細粒砂とシルトの平行葉理・層理の互層。カレント・リップル層理とダブルマッドドレイブ、橢円形の生痕化石がみられる。 22.0-22.5m上方粗粒化を示す。	沖積層（エスチュアリーシステム）	21.90 22.00 22.90 23.00 23.24 24.08 24.17 25.28 25.32 25.55	b 082205a29 b 080505a14 b 080505a15 Beta 209335 Beta 209334 b 081205a16 b 081205a14 b 081205a15	C14年代 (7880 ± 50 y r BP) C14年代 (8210 ± 130 y r BP) C14年代 (8330 ± 60 y r BP) C14年代 (7880 ± 80 y r BP) C14年代 (8240 ± 60 y r BP) C14年代 (8350 ± 80 y r BP)
23	-21.63	0.90	23.30		貝殻混り砂質シルト (MS-Sh)		シルト・極細砂。 23.0m以浅にはアナジャコ類などによって形成されたと考えられる生痕化石 (Psilonichnus isp.) がみられる。 23.2m以浅からスマコダキガイ類を産出。		26.90 26.92 27.94 27.94 29.75 29.75	b 081205a16 b 081205a19 b 082205a30	C14年代 (7750 ± 60 y r BP) C14年代 (8570 ± 60 y r BP) C14年代 (8570 ± 60 y r BP)
24	-23.83	2.20	25.50		シルト・細砂互層 (M/FS)		層厚2cm以下の細粒砂とシルトの平行葉理・層理の互層。カレント・リップル層理とダブルマッドドレイブ、橢円形の生痕化石がみられる。 23.4-25.0m上方粗粒化を示す。				
25	-25.13	1.30	26.80		細砂 (FS)		極細砂。				
26	-27.23	2.10	28.90		細砂 (FS)		26.9-27.8m セット高が10-20cmのトラフ型斜交層理がみられる。				
27	-28.83	1.60	30.50		砂 (S)		極細～中砂。 中砂から極細砂へ上方細粒化を示す。 極細砂はヘリンボーン構造を示す。				
28	-29.33	0.50	31.00		砂 (S)		細～粗砂。 粗砂から細砂へ上方細粒化を示す。 粗砂はセット高が20cm以上の低角の平板型斜交層理を示す。				
29	-30.33	1.00	32.00		細砂 (FS)		コア試料欠如。				
30	-31.33	1.00	33.00		細砂 (FS)		カレント・リップル層理の発達した細砂。 下位の中砂から上方細粒化。 ヘリンボーン構造を示す。				
31	-33.93	2.60	35.60		中砂 (MS)		セット高が10-20cmのトラフ型-平板型斜交層理を示す中砂。 上位の細砂へ上方細粒化。 基底には長径8cm以下のマッドクラストが濃集する。				
32	-35.23	1.30	36.90		砂 (S)		中～細砂。 上方細粒化を示す。 低角（約5°以下）の平板型斜交層理がみられる。	沖積層（蛇行河川システム）	34.75 36.78 38.93 39.32 41.15 43.32 45.40 47.45 49.67 50.03	b 081205a20 b 081205a21 b 081205a22 b 081205a24 b 081205a25 b 081205a26 b 081205a27 b 081205a29 b 081205a30 b 081205a31	C14年代 (8730 ± 60 y r BP) C14年代 (8790 ± 60 y r BP) C14年代 (9290 ± 70 y r BP) C14年代 (9140 ± 70 y r BP) C14年代 (9340 ± 60 y r BP) C14年代 (9920 ± 60 y r BP) C14年代 (9480 ± 60 y r BP) C14年代 (11020 ± 60 y r BP) C14年代 (10710 ± 80 y r BP)
33	-37.53	2.30	39.20		粗砂 (CS)		シルト～砂礫。 砂礫からシルトへと上方細粒化する。 セット高が40cm以下のトラフ型斜交層理を示す。 39.2-39.5m シルト。 40.45m付近 細～中礫を含む。				
34	-38.83	1.30	40.50		中砂 (MS)						
35	-39.33	0.50	41.00		有機質シルト (MO)		泥炭質なシルト層。 極細砂の薄層を挟む。 炭化した植物片や植物根を多く含む。 藍鉄鉱が晶出する。				
36	-46.63	7.30	48.30		有機質シルト・細砂 互層 (MO/FS)		シルト層と極細～細砂層の互層。 植物片を多く含む。 砂層中にはカレント・リップル層理がみられ、シルト層から逆級化することが多い。				
37	-48.53	1.90	50.20		砂 (S)		細～中砂。 セット高が30cm以上で、20-30°に傾斜する、コンケーブ状のフォアセット構造がみられ、トラフ型斜交層理の一部であると考えられる。 50.2-50.5、50.5-52.1m間 それぞれ上方細粒化を示す。				
38	-50.43	1.90	52.10		粗砂 (CS)		平行葉理がみられ、細碟が点在する。 最上部に中碟を含む。				
39	-51.23	0.80	52.90		砂碟 (GS)		碟の最大(長軸)径は4-7cmで、粒径の垂直方向の変化は認められない。				
40	-53.13	1.90	54.80		中砂 (MS)		平行葉理がみられ、細碟が点在する。				
41	-53.63	0.50	55.30								

-53.63	0.50	55.30	● ● ● ●	中砂 (MS) 砂礫・中砂互層 (GS/MS)	平行葉理がみられ、細礫が点在する。 礫の最大(長軸)径は4-7cmで、粒径の垂直方向の変化は認められない。	冲積層(網状河川システム/基底礫層)				
56										
57	-55.73	2.10	57.40	● ● ● ●	細砂 (FS)	極細砂。 58.00m付近 細礫を含む。	下総層群			
58	-56.33	0.60	58.00	● ● ● ●						